

## 第 206 回 荒川区の橋本左内像

筆者：林 久治（記載：2022 年 11 月 5 日）

### （1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 ([1\) のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張って人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」と言う意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。

武漢肺炎による自粛生活で家に籠っていると、運動不足で体重が増加するし、精神的にも圧迫を感じる。私の銅像探索は不要不急の活動ではなく、私の生存に必要な不可欠である。昨年の末には感染者数が激減し、「これで流行は終息か？」と期待していた。所が、本年になって第 6 波が到来してしまった。2 月 3 日には、日本全国の新規感染者数は、過去最高の 104,334 名に達した。しかし、これをピークとして新規感染者数は徐々に減少して、6 月 23 日には 16,670 名にまで減少した。

私は第 4 回目の予防接種を 7 月 8 日に受けることが出来た。そこで、私は 7 月 16 日からの連休後に大阪に行って、孫達と遊ぶことを計画した。しかし、6 月末から第 7 波が到来して、新規感染者数が急激に増加し始めたので、残念ながら私は大阪行きを中止した次第である。その間、新規感染者数は急激に増加し、8 月 3 日には過去最高の 249,789 名にまで達した。これは、当日の世界最高値であった。

東京地方の猛暑は例年以上で、7 月初旬から最高気温は連日 35℃以上であった。従って、第 7 波と猛暑のため、私は銅像探索をしばらく自粛していた。しかし、8 月 4 日から 6 日までは大変涼しくなったので、6 日には東京でも銅像探索を再開した。9 月初旬、私共は大阪に滞在し、近畿の銅像を探索した。東京に帰ってから、運動を兼ねて銅像探索を続けている。

私は、10 月 8 日に品川区の上條秀介像、浦本政三郎像、及び菊地淡水像を探索した。10 月 21 日には、品川区の町田佳聲像、石井鐵太郎像と高木正年像も探索した。これらの探索記を含めて、私の銅像探索記の全ては、[2\) のサイト/f](#) から閲覧出来ます。

さて、荒川区の橋本左内像は有名な銅像サイトである [3\) のサイト/1](#) には収録されているが、[1\) のサイト/](#) には収録されていない。本像の近くの南千住駅界隈に、ドン・ボスコ像と井上省三像もある。（[1\) のサイト/](#) には、前者は収録されていないが、後者は収録されている。）そこで、私は 10 月 29 日にこれら 3 像を探索した。本稿は、橋本左内像の探索記である。本稿では、私の意見などを **青文字** で、資料の内容などを **緑文字** で記載する。なお、ドン・ボスコ像と井上省三像の探索記は、次回以降の記事に記載する予定である。

## (2) 回向院の橋本左内墓所

南千住駅の周辺地図を図1に示す。今回の第一目標は橋本佐内像である。[3\)のサイト/1](#)には、「南千住駅近傍にある回向院(図1の①)に佐内の墓がある」と記載されているので、先ず回向院に行ってみた。



図1. 南千住駅の周辺地図、本図は、[4\)のサイト/](#)より借用。①：回向院、②：延命寺、③：橋本佐内像、④井上省三像、⑤ドン・ボスコ像。

江戸時代には、当地に「小塚原刑場」があった。現在は刑場跡の中央に常磐線の線路があり、線路の両側に、回向院(図1の①)と延命寺(図1の②)がある。(なお、両院の紹介は、[5\)のサイト/1](#)が詳しい。) 処刑は延命寺側で行われ、遺体の埋葬は回向院側で行われたようだ。次ページの図2上に「回向院の説明板」を、図2下に「回向院の史跡エリア」を示す。

「史跡エリア」には、安政の大獄の橋本左内・吉田松陰・頼三樹三郎や、桜田門外の変や坂下門事件に連座した浪士達、維新政府に反逆して斬首された雲井竜雄ら、幕末から維新时期に活躍した志士たちの多くが眠っている。また講談や演劇でお馴染みの直侍片岡直次郎、鼠小僧次郎吉、高橋お伝、侠客腕の喜三郎など枚挙に暇がないほど多彩な人々が葬られている。詳細は、[5\)のサイト/1](#)をご覧ください。

(本文は、5ページに続く。)

## 回向院

回向院は、寛文七年（一六六七）、本所回向院の住職弟誉義観が、行路病死者や刑死者の供養のために開いた寺で、当時は常行堂と称していた。

安政の大獄により刑死した橋本左内・吉田松陰・頼三樹三郎ら多くの志士たちが葬られている。

明和八年（一七七二）蘭学者杉田玄白・中川淳庵・前野良沢らが、小塚原で刑死者の解剖に立ち合った。後に『解体新書』を翻訳し、日本医学史上に大きな功績を残したことを記念して、大正十一年に観臓記念碑が建立された。

荒川区教育委員会



図3. 上：回向院の説明板、下：回向院の史跡エリア。





図4.  
上：橋本佐内の墓、  
下：観臟記念碑。



図4上に、橋本佐内の墓を示す。[6\)のサイト/1](#)には、佐内処刑の経緯が次のように書かれている。

1858年、彦根藩主井伊直弼が大老に就任し一橋派を弾圧。福井藩主松平慶永は、隠居・閉門となり、慶永側近の橋本左内は、福井藩邸内で謹慎、数度の尋問を受ける。1859年10月、左内は一藩士が將軍継嗣に関わったことが問題とされ、小伝馬町の牢屋敷において斬刑となり、小塚原回向院へ埋葬される。しかし、1862年11月には安政大獄の関係者は大赦となる。1933年に左内を崇敬する福井県民を主なメンバーとする景岳会が結成され、墓石を永く護るための套堂（さやどう）の建設が行われた。この套堂は、回向院の境内入口にあったが、2006年同院の境内整備の際、新しい套堂が建てられ、旧套堂は荒川区に寄贈されることになり、2009年に荒川ふるさと文化館の敷地内に移転、復元・保存されている。

1771年、前野良沢・中川淳庵・杉田玄白の3人が、小塚原刑場において、京都出身の「青茶婆ア」という俗称の、50歳代の女性刑死者の腑分け（人体解剖）を行い、オランダ解剖書「ターヘル・アナトミア」の正確さに深い感銘を受け、その翻訳をした快挙を記念した碑（「[観臓記念碑](#)」）が、回向院の入口脇の壁に貼り付けてある。その写真を図4下に示す。本碑には、次のように書かれている。

#### 蘭学を生んだ解体を記念に

1771年・明和八年三月四日に杉田玄白・前野良沢・中川淳庵等がここへ腑分を見に来た。それまでも解体を見た人はあったが、玄白等はオランダ語の解剖書ターヘル・アナトミアを持って来て、その図を実物と引き比べ、その正確なのに驚いた。その帰途、3人は発憤してこの本を日本の医者のために訳そうと決心し、早速明るの日から取り掛かった。そして苦心の末、ついに1774年・安政三年八月に「解体新書」五巻を作り上げた。

これが西洋の学術書の本格的な翻訳の初めで、これから蘭学が盛んになり、日本の近代文化が芽生えるきっかけとなった。さきに1922年奨進医会が観臓記念碑を本堂裏に建てたが、1945年2月25日戦災を受けたので、解体新書の絵扉を象った浮彫青銅板だけをここへ移して、新たに建てなおした。

1959年

昭和34年3月4日

第15回日本医学会総会の機会に 日本医史学会 日本医学会 日本医師会



図5. 左：回向院の吉展地蔵尊、  
右：延命寺の首切り地蔵。





回向院の入口には、1基の地蔵様がおられた。その写真を図5左に示す。その名前は「吉展地蔵尊」と書かれていた。荒川区にある小塚原回向院と円通寺には、それぞれ「吉展地蔵尊」が設置されている。「吉展ちゃん事件」の詳細は、[7\)のサイト/3](#)に記載されている。図5右は、延命寺(図1の②)の「首切り地蔵」である。

### (3) 荒川ふるさと文化館の橋本佐内像

私は回向院(図1の①)から駅前通を約10分歩いて、素盞雄神社(図1の③)に到着した。その写真を図6に示す。当社は795年の創建で、当地の中心的神社である。松尾芭蕉が「奥の細道」の旅へ出発した地点としても知られている。当日は、「七五三詣」で賑わっていた。



図6. 素盞雄神社の鳥居

素盞雄神社の隣には「荒川ふるさと文化館」があり、その前には套堂があった。その写真を次ページの図7上に示す。套堂を正面から見た写真を図7下に示す。内部には小さ目の銅像が設置されていた。套堂の向かって右側には、荒川区教育委員会が作成した掲示板があった。それには、「**①橋本佐内の墓旧鞘堂**」と「**②橋本左内の墓及び橋本左内の墓旧套堂関係略年表**」と題する2種類の案内文が書かれていた。向かって左側には、「**③橋本左内の墓旧套堂復元と福井県との交流を記念して**」と題する掲示板があった(詳しくは、[8\)のサイト/1](#)をご覧ください)。これらの文書は長文であるので、本稿の参考資料リストの後に記載する。

(本文は、9ページに続く。)



図7. 上：素盞雄神社の隣にある「荒川ふるさと文化館」の前庭に設置された套堂、下：套堂の内部と左右の掲示板。





図 8.

上：橋本佐内座像、

下：橋本左内肖像、本図は、国立国会図書館「近代日本人の肖像」[\(9\)のサイト/3](#)より借用。





図9. 橋本佐内座像の説明書

図8上に、套堂内の橋本佐内座像を示す。図8下には、国立国会図書館「近代日本人の肖像」([9\)のサイト/3](#))に掲載されている佐内の肖像画を示す。佐内座像の前には、本像の説明書が置いてあった。その写真を図9に示す。本文より「**本像の原型は陶製で、荒川区指定無形文化財保持者の菓子満氏が鑄造した**」ことが分かる。なお、本像の除幕式の模様は、[10\)のサイト/1](#)に報告されている。

菓子満氏の略歴は[11\)のサイト/1](#)に記載されている。それを以下に記載する。

菓子満(かし・みつる、1938-)さんの父・菓子十平氏は、浅草の大賀房次郎(西村和泉守派)に師事し、美術鑄金の技術を修得した。菓子満さんは、高校3年生の頃から本格的に父について修業を始めた。その後、東京藝術大学入学と同時に父が逝去。昭和37年、同大学鑄金部専攻科を修了後、父が遺した菓子美術金研究所を再興した。日本古来の伝統的な技法である真土(まね)型鑄造法で、美術工芸品や彫刻などを鑄造し、鑄型作りから仕上げまでを一貫して行う。自作のみならず、著名な作家の作品も手がける。作例として、堂崎天主堂(長崎県)の「マルマン・ペルー像」、東京藝術大学大学美術館の「山尾庸三像」(彫刻・ラクーザ・ピンチェンツォ)、「トレドの羊飼い」(彫刻・淀井敏夫、荒川ふるさと文化館所蔵)、修復作品には、坂本龍馬像(高知市)、中岡慎太郎像(室戸市)などがあり、全国で見ることができる。現在、日本鑄金家協会顧問、荒川区顧問を務める。

平成20年度、区指定無形文化財保持者に認定。

平成23年度、卓越した技能者(現代の名工)の表彰受賞。

平成28年、黄綬褒章受章。

なお、[11\)のサイト/1](#)には、鑄造の手法や橋本佐内座像の制作過程を示す動画が収録されており、大変面白い。以上の資料などにより、橋本像の概要は次の通りである。

#### 橋本左内座像

設置場所：東京都荒川区南千住6-63-1 荒川ふるさと文化館前庭

原型陶像：福井県提供

鑄造者：荒川区在住の鑄造師・菓子満(かし・みつる、1938-)

除幕式：2010年3月23日

設置経緯：橋本左内(1834年4月19日-1859年11月1日)は福井藩医の橋本長綱の長男として越前国常磐町に生まれる。1849年、大坂に出て適塾で緒方洪庵に師事。左内は福井藩中でも随一の俊英として高く評価され、若くして福井藩主・松平春嶽の側近となり、早期の幕政改革や開国の必要性を訴えた。しかし、1859年、大老・井伊直弼が主導する安政の大獄において、幕政批判と将軍家継嗣への介入を咎められ、江戸・小伝馬町の牢屋敷に

において斬刑となり、遺体は小塚原（現・荒川区南千住 5 丁目）の回向院に埋葬された。享年 26。1933 年 6 月、回向院墓所の套堂落成式が行われた。2005 年 12 月、回向院の境内整備に伴い、橋本左内の墓が同院史跡エリアに移されることになり、併せて新套堂が建設された。旧套堂は荒川ふるさと文化館に復元され、2009 年 3 月に落成式が行われた。

#### 参考資料

- 1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト：<http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf>
- 3) のサイト：<https://rekigun.net/original/travel/statue/statue-21.html>
- 4) のサイト：<https://www.arakawa-sposen.com/>
- 5) のサイト：<http://copperdentalcl4181.blog.fc2.com/blog-entry-278.html>
- 6) のサイト：<http://pccwm336.xsrv.jp/sub3.html>
- 7) のサイト：  
<https://tokyopowerspot.com/blog/%E3%81%8A%E5%A2%93%E3%82%81%E3%81%90%E3%82%8A/16043>
- 8) のサイト：<https://ameblo.jp/indyakil2/entry-12642767590.html>
- 9) のサイト：<https://www.ndl.go.jp/portrait/datas/313>
- 10) のサイト：[https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/ti\\_1/d220323.html](https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/ti_1/d220323.html)
- 11) のサイト：  
[https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a016/bunkageijutsu/dento/dentouniikiru\\_h21.html](https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a016/bunkageijutsu/dento/dentouniikiru_h21.html)

「荒川ふるさと文化館」の前庭に設置された鞘堂の左右には 2 基の掲示板が設置されている（図 7 下を参照）。そこには、「**①橋本佐内の墓旧套堂**」、「**②橋本左内の墓及び橋本左内の墓旧套堂関係略年表**」及び「**③橋本左内の墓旧套堂復元と福井県との交流を記念して**」と題する文書が掲示されている。以下にこれらの文書を示す。

#### ①橋本佐内の墓旧套堂

荒川区登録有形文化財（歴史資料）

##### 橋本左内の墓旧套堂

この套堂は、昭和 8 年（1933）に橋本左内の墓（区登録有形文化財〔歴史資料〕）を保護する（納める、覆う）ために造られた建造物です。大正 12 年（1923）の関東大震災後に耐震性と不燃性の観点から注目されるようになった鉄筋コンクリート造で、規模は方一間（柱間 1.94 メートル）、宝形造の屋根、軒裏および柱・梁等の軸部には、表面に人造擬石洗出・研出仕上げを施しており、伝統的な建築の意匠と近代的工法との折衷を図った近代仏教建築といえます。もとは回向院（南千住 5 丁目）境内入口にありましたが、平成 18 年（2006）、套堂のみ区に寄贈され、平成 21 年（2009）、ここに復元されました。

当時、套堂の施主となったのは、橋本左内を追慕し、遺徳を広く発揚することを目的として、明治 35 年（1902）に設立された景岳会で、事務所は福井県出身の学生を育英するため設けられた輔仁会内に置かれました。設計には、同会会員で建築家でもあった原田正があたり、歴史学者黒板勝美（古社寺保存会委員・東京帝国大学教授）に助言を求め、日本建築史



を体系化した建築家伊東忠太（東京帝国大学教授・史蹟名勝天然記念物保存協会評議員）の監修を受けています。また、正面に据え付けられた陶製の橋本家の家紋のデザインは、福井県出身で、日本の陶彫のさきがけとして知られる沼田一雅（東京美術学校教授）によるものです。当代一流の学者の知識・技術・感性が結集した近代の貴重な文化財といえます。

平成 21 年（2009）3 月 26 日 荒川区教育委員会

## ②橋本左内の墓及び橋本左内の墓旧套堂関係略年表

天保 5 年（1834）3 月：橋本左内、福井藩奥外科医の子として生まれる。

嘉永元年（1848）6 月：15 歳の時、「啓発録」を著す。

安政元年（1854）3 月：江戸に遊学。坪井信良、杉田成卿に蘭学を学ぶ。遊学中、藤田東湖（水戸藩）や西郷隆盛（薩摩藩）ら他藩士と交友を結ぶ。

安政 4 年（1857）：福井藩主松平慶永（春嶽）の側近として藩政改革を行う。また、松平慶永の意を受け、一橋慶喜の將軍擁立のため活動を始め、他藩士や幕閣の間を奔走する。

安政 5 年（1858）：彦根藩主井伊直弼、大老に就任し一橋派を弾圧。松平慶永は、隠居・閉門となり、橋本左内は、福井藩邸内で謹慎。数度の尋問を受ける。

安政 6 年（1859）10 月：橋本左内、一藩士が將軍継嗣に関わったことが問題とされ、小伝馬町の牢屋敷において斬刑となり、小塚原回向院へ埋葬される。

文久 2 年（1862）11 月：安政の大獄の関係者の大赦。

文久 3 年（1863）5 月：橋本左内の墓が国許福井の橋本家菩提寺善慶寺に改葬される。

明治 18 年（1885）11 月：景岳橋本君碑が回向院に落成。

明治 26 年（1893）11 月：橋本左内の墓が回向院に移転され、再建される。

明治 35 年（1902）10 月：景岳会が設立される。

大正 14 年（1925）6 月：回向院の橋本左内の墓及び景岳橋本君碑を含む小塚原志士墓所が東京府仮指定史跡となる。

昭和 5 年（1930）12 月：景岳会が橋本左内の墓の破損防止策を遣欧し、套堂の建設を決定。

昭和 8 年（1933）6 月：套堂の落成式が行われる。

昭和 58 年（1983）6 月：橋本左内の墓及び小塚原の刑場跡を区記念物（史跡）に登録。

平成 17 年（2005）12 月：回向院の境内整備に伴い、橋本左内の墓が同院史跡エリアに移されることになる。併せて保存処理が施される。

平成 18 年（2006）1 月：回向院より套堂が区に寄贈され、解体のうえ、荒川ふるさと文化館に保管される。小塚原の刑場跡を区記念物（史跡）に指定。

平成 20 年（2008）2 月：橋本左内の墓及び套堂、それぞれ単体で区登録有形文化財（歴史資料）に変更。

平成 21 年（2009）3 月：套堂が荒川ふるさと文化館に復元され、落成式を行う。

## ③橋本左内の墓旧套堂復元と福井県との交流を記念して

「橋本左内の墓旧套堂」（区登録有形文化財〔歴史資料〕）は、もと回向院（南千住 5 丁目）の境内入口にあったものです。平成 18 年（2006）、同院の境内整備の際、荒川区に寄贈されることになり、平成 21 年（2009）、ここに復元・保存されました。

南千住には、この套堂ばかりではなく、福井県ゆかりの史跡や幕末の史跡が多く所在しています。回向院境内北側に新たに設けられた史跡エリアには、福井藩士橋本左内の墓、小浜藩士梅田雲浜の墓があり、また、回向院内には、小浜藩医杉田玄白らの「ターヘルアナトミア」の翻訳と「解体新書」の刊行を記念してつくられた観臓記念碑があります。これらは、地域の人びとにとって身近なものであり、福井県にとっても重要な史跡となっています。

多くの方々のご協力を得て、この地に復元が叶った今、「橋本左内の墓旧套堂」は地域の歴史を伝えるモニュメントとして、また荒川区と福井県との交流の場として、新たなスタートを切ることになりました。

平成 21 年 (2009) 3 月 26 日 荒川区